

統括

1. 安全確認を行え

- 職員
 - 個人防護を装着させる
(ガウン, マスク, 手袋, 帽子, ゴーグル・眼鏡など)
- 施設
 - ゾーニング・患者動線を設定する
- NBC災害の場合は 以下をスタッフに指示せよ
 - ガウン・手袋は二重にする
 - Zoneのラインを超えて, 診療エリアから出ない
 - 「未除染」の傷病者に不用意に近づかない

2. 救急診療の調整場所を設置せよ

- 【H _____】前 (h _____)
- ホワイトボードを設置し, 情報共有を開始
 - 災害概要
 - 役割分担・担当範囲
 - 傷病者数
 - 病床・手術室の状況
- 役割ベストを着用

3. 患者を管理する ※災害対策本部と協力し対応すること

- 情報伝達手段を複数確保すること
 - 伝令 (必ずメモを持たせること)
 - トランシーバー (チャンネル・バッテリーのチェック)
- 全エリアの情報 (患者人数, 重症度) を把握すること
 - トリアージ・赤・黄・緑・黒 各エリア
- 以下の事柄を決定する (複数の) 専任医師を指定すること
 - 再トリアージ・診療および治療内容の範囲 (各エリア)
 - 画像撮影の優先順位 (放射線撮影室)
 - 入院病棟・手術室・転院搬送・帰宅などの転帰 (情報管理)

人員と病床の確保

1. 安全確認を行え

- 職員
 - 個人防護を装着させる
 - (ガウン, マスク, 手袋, 帽子, ゴーグル・眼鏡など)
- 施設
 - ゾーニング・患者動線を設定する
- NBC災害の場合は 以下をスタッフに指示する
 - ガウン・手袋は二重にする
 - Zoneのラインを超えて, 診療エリアから出ない
 - 「未除染」の傷病者に不用意に近づかない

2. 救急診療の調整場所を設置せよ

- 【H _____】前 (h _____)
- ホワイトボードを設置し, 情報共有を開始
 - 災害概要
 - 役割分担・担当範囲
 - 傷病者数
 - 病床・手術室の状況
- 役割ベストを着用

3. 人員と病床の確保と配置調整を行う ※救急外来看護師と協力

- 緊急招集
 - 看護寮および職員宿舎の入居者 → 【I _____】 (i _____) に依頼
 - 緊急連絡網
 - 空き病床の確保
 - ICUを優先的に空けること
 - 搬送業務の準備
 - 車イス, 担架, ストレッチャーの収集を指示
 - 余剰人員の確保
 - 院内配置の見直し
 - 人員配置の調整
- ※ 救急外来・災害対策本部と協力して行うこと

トリアージと搬送

1. 安全確認を行え

- 職員
 - 個人防護を装着させる
 - (ガウン, マスク, 手袋, 帽子, ゴーグル・眼鏡など)
- 施設
 - ゾーニング・患者動線を設定する
- NBC災害の場合は 以下をスタッフに指示する
 - ガウン・手袋は二重にする
 - Zoneのラインを超えて, 診療エリアから出ない
 - 「未除染」の傷病者に不用意に近づかない

2. トリアージポストを準備せよ

- 役割ベストを着用
- 情報伝達手段を複数確保する
 - 伝令 (必ずメモを持たせる)
 - トランシーバー (チャンネル・バッテリーのチェック)
- 搬送の準備
 - 人員
 - 手段
 - 動線

3. 患者を管理する

- トリアージ区分を優先して決定する
 - タグの記載は最小限でよい
 - 緑は患者に緑エリアで記載させる
- 搬送先を正確に指示する
- 患者情報を「メモ+伝令」で救急診療の調整場所に報告する
 - トリアージ人数 (総数・エリア別数)
 - 再トリアージ・診療および治療内容の範囲

対策本部【E 】前 (h), 救急診療の調整場所【H 】(h)

エリアの運営

1. 安全確認を行え

- 職員
 - 個人防護を装着させる
 - (ガウン, マスク, 手袋, 帽子, ゴーグル・眼鏡など)
- 施設
 - ゾーニング・患者動線を設定する
- NBC災害の場合は 以下をスタッフに指示する
 - ガウン・手袋は二重にする
 - Zoneのラインを超えて, 診療エリアから出ない
 - 「未除染」の傷病者に不用意に近づかない

2. エリアを準備せよ

- 役割ベストを着用
- 情報伝達手段を複数確保する
 - 伝令 (必ずメモを持たせる)
 - トランシーバー (チャンネル・バッテリーのチェック)
- 場所の設置と人員の配置
 - 受付・待機・診療場所の確保と動線チェック
 - 「検査検体と結果」および「放射線撮影依頼書」の置き場の明示
 - 情報共有用のホワイトボードの設置

3. 患者を管理する ※災害対策本部と協力し対応すること

- 患者への人員配置に注意する
 - 診察・治療・待機治療 では必要人員が異なる
 - 搬送・撮影待ち中の「急変対応」について考慮する
- 治療の水準を一定させる
- 診療記録を残す
 - 紙カルテの場合には, 「時刻」と「サイン」を忘れない
- 患者情報を「メモ+伝令」で救急診療の調整場所と本部に報告する
 - 氏名・性別・年齢・疾患名・転帰 (入院病棟・待機場所・帰宅)